

2019森林環境譲与税シンポジウム&ワークショップ

～水源の森「向山緑地」若返り事業で未来につなぐ東久留米の自然と地域社会～

○開催趣旨:

古代より近年までなりわいの中で地域の人々の手が入り大切にされてきた向山緑地ですが、ライフスタイルの変化とともに人の手が入らなくなり、森林の衰えが目立つようになりました。この状況を改善すべく、市民ボランティア・グループが手入れを行ってきました。今回、森林環境譲与税を用いて、一層の若返り事業を行うことになり、キックオフのシンポジウムとワークショップを開催するものです。

身近に森林のない都会では、木は購入するしかありませんが、貴重な森林と身近に接することができる東久留米では、木の命が受け継がれていること、活用し、また次世代につなげていくという全体の循環プロセスを学ぶことができます。貴重な武蔵野の緑の回廊のかなめである水源の雑木林を未来へつなぐため、未来を担う子どもたちとみどりの若返りの大切さと実践を分かち合いたいと思います。



○開催日時:

2019年8月25日(日)【午前の部】9時半～11時半 【午後の部】13時半～15時半程度

○参加費: 無料 午後の部: ワークショップ(事前申込制・対象小学生親子20組程度)

○開催場所:

東久留米市立生涯学習センター(〒203-0054 東久留米市中央町2-6-23)

【午前の部】まろにえホール(400名) 【午後の部】学習室1・2

○主催: 東久留米市 共催: (学)自由学園, (組合)多摩六都科学館

後援(予定): 小平市, 東村山市, 清瀬市, 西東京市(→多摩北部広域行政圏協議会緑化専門委員会)

【連絡先: 東久留米市環境安全部環境政策課 Tel: 042-470-7753】

○プログラム:

【午前の部】

講演1 「向山緑地とは？」



霜柱が立って崩れて行く北向き斜面が古代から人々により垂直に維持されてきた可能性と、年間を通じて水温が一定の湧水と縁崖林の樹木や常緑の植物の関係をひもときます。

(学)自由学園 環境文化創造センター長/東久留米市環境審議会会長 杉原弘恭

講演2 「向山の地と縄文人の暮らし」



向山には、約7,500年前から500年ほど続いた縄文集落がありました。水の存在と遺跡の関係を周辺の遺跡と共にひもときます。

(学)自由学園 大学部准教授/東久留米市文化財保護審議会委員 奈良忠寿

講演3 「雑木林の若返りと活用」



山間部の森林に思いを致すことができるためにも、都市部の雑木林の若返り・維持・活用は、子どもたちの格好の学習フィールドとなります。

元神奈川県自然環境保全センター・元京都学園大学教授 中川重年

講演4 「都市林と私たちの暮らし」



明治時代からの農地・山林面積の移り変わりをとに、私たちの暮らしと都市林の関わりを振り返ります。あわせて森林環境(譲与)税のあり方を探ります。

東京大学田無演習林長 安村直樹

【午後の部】ワークショップ(事前申込制・対象小学生親子)

お話「木の得意技を生かそう」東京大学田無演習林長 安村直樹

木工作 (学)自由学園 環境文化創造センター技術員 遠藤智史

「向山の木、色々な木で作るコースター or ネームプレートetc」(仮)



(イラスト:大塚萌)